



# 八千代オイコス かわら版

第36号

平成30年2月15日発行  
NPO法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



印旛沼師戸初日の出 撮影者:オイコス 川田



## 新しい年を迎えて 一川に学ぶ子ども達を想うー

八千代オイコス代表理事 川瀬純一

皆様新年あけましておめでとうございます。

昨年は新しく、頼もしい仲間が4名も加わり活気ある一年が過ごせました。一方では、オイコス設立以来行動を共にして来た仲間を失う悲しい場面を二度も経験しました。

私の代表就任以来のテーマとしてきた、「活動の継続性は組織の若返り」が必要です。その為には常に新しい仲間を増やすことが大切であると申し上げてきました。

しかしながら、どこの団体にも共通の問題として悩ましいことである若い人の参加がままならない現状があります。力強い仲間の増えたことをきっかけに、更に新たな会員増員の努力を続けて行きたいと思います。

さて、オイコスは花輪川に拠点を置いて活動を続けて16年になりますが、スタート時より一貫して花輪川を通して「水」と係わる活動を進めてきました。

「花輪川をきれいにすることが印旛沼の浄化に繋がる」を事業活動のテーマとして、その延長線上に<川の学校>が誕生しました。

近年、子ども達と自然のつながりの接点は極めて薄く、我々子ども時代と比べれば大きな差です。<川の学校>を単なる夏休み行事ととらえるのではなく、「地域の中で年齢の異なる子ども達が互いに影響し合って育てられていくような、“地域教育の場”」となるような思いを持って進めて行きたいと願っています。

川に棲む生き物にとって、川の水は私たち人間にとっての空気と同じです。汚れた水には生きることできません。様々な生き物や水草にとっての生態系を保っていることを知って貰いたいと思います。

これからもオイコスの<川の学校>が“地域教育の場”として自信を持って子ども達と一緒に活動を続けていきたいと思っています。

## オイコス米作りの一年

苗を育てるのは大変手間暇のかかる作業です。その苗を作ってくれていたのは豊田さん（故人）でした。

温度、水、消毒等の管理もさらに大変。農業をやっている人なら解るはず。さて、稲の生育から収穫、餅つきまでをみると、田起し、代掻き、そして田植え5月7日植え終わってから水を守る。これは大変な作業。この田んぼは水はけが良く、一晩で水がなくなるので水遣りにはとても気を使っています。

次は雑草取り。6月4日、7月1日、8月5日と3回行い、この間肥料をやり、9月24日に稲刈り及びハザカケ。竹が倒れるので注意を要します。

次に精米。12月16日1時から餅つき準備。大忙しで道具をそろえる。かまど、蒸籠、蓋、木綿布、水くみ、杵、臼、バケツ、ボール。この日に餅米を研いでおきます。

12月17日、JA交流センターでオイコス主催の餅つき会を開催。朝早く集合。

餅米約60kgを杵臼と餅っこで前日研いでおいた米を使って26臼つきました。一番、二番、三番目までの餅は、つきたてを、餡子、黄粉、海苔、納豆とワイワイ言いながら参加者全員でいただきました。そして参加した全家族にのし餅と丸餅を配りました。

最後になりますが、JA交流センターのご協力に感謝します。また、米作りに関わられた皆さん、ご苦労様でした。（近藤）



▲7月1日梅雨の中 草取り



▲9月24日 子ども達も稲刈り



▲稲刈りを終え、ハザカケの準備



▲10月8日 脱穀



子ども達も餅つきにチャレンジ！



## 餅つき会

去る12月17日、息子と2人で「餅つき会」に参加させていただきました。

田起こしに始まり、田植え、除草、稲刈りと、年間を通した米作り体験の締めくくりとなるイベントです。当日は天候にも恵まれ、心地よい陽気の中で楽しい時間を過ごせました。特につきたてのお餅の味は格別で、小学3年生の息子も大喜びでした。

昔ながらの杵や臼を使うこともそうですが、自ら植え、収穫したお米で餅をつくことは、大変意義深く、非常に貴重な経験であったと思います。

親子共に、米作りを通して楽しい体験をさせていただきました。企画、運営頂いたオイコスの皆様、本当にありがとうございました。（加納）



▲子ども達ががんばります！



▲余ったおもちを使って丸餅づくりの講習会

## 「サポートセンター祭り」に参加

このフェスティバルは平成29年11月12日（日）フルルガーデン八千代 噴水広場において行われました。当日は10月並みの暖かい日となり市民活動23団体に交わり参加しました。

オイコス会員10名はブースに活動紹介パネル、秋のエコウォーキングのチラシ、かわら版の他花輪川でとれた銀杏、竹酢液、会員自家製の野菜などを用意しました。

写真をふんだんに使った「川の学校」「花輪川の保全作業」を中心に説明。オイコスの活動に興味を持って頂く良い機会となりました。

ステージでは軽音楽、フラダンス、吹奏楽などが順次行われフェスティバルに花を添え楽しい一日でした。

参加者は昨年並みの4,500人でした。私達も他の団体の展示や説明など学ぶことも多々あり、今後の参考にしてゆきたいと思っています。（島）



## 花輪川「冬の花壇パンジー賑やかに」

11月10日（金）緑化公社に申し込んであったパンジー苗700株を、3人で受け取り、仲間が待つ花輪川へ車で運びました。花壇には6月中旬に植えて夏の花壇を彩ってくれたサルビアがまだ少し花が残っていましたが、これらを抜き、そのあとを整地しながら5人で5列に植えていきました。花壇の土は砂利が多く、水はけはいいものの、小さな苗には向きません。

しかし、パンジーはスミレの一種で強いので、冬の殺風景な花壇には適しています。きっと、紫のパンジーは冬の道を散歩する人たちの心を和ませてくれると思います。

正月、散歩の帰りにパンジーの様子を見てきました。周りは霜柱がいっぱい立っていましたが、パンジーは元気で安心しました。（新谷）



## ボーイスカウトの子ども達と活動して

日本ボーイスカウト八千代第2団の子ども達と、オイコスが共催活動を始めたのが2016年9月でした。ボーイスカウトのメイン活動でもある「スカウトデイ」で、このあと2017年にも、9月「スカウトデイ」を2年連続で活動を共にしました。

日本ボーイスカウトの歴史は古く、1972年（昭和47年）には創立50周年パレードが銀座で実施されたとの事ですから、100年の歴史を迎えるのもそう遠くは無いですね。

創立の理念は「ボーイスカウトの運動を通して青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図る事を目的とする」とあります。

共催活動の折、子ども達が集合し指導者の号令で整列する幼い子ども達を見ると、思わず微笑ましく見守ってしまいます。家庭や学校の場と違うグラウンドで団体行動を学ぶ姿に、川の学校を「地域教育の場」と指向するオイコスと併せ共に向上を図りたい思いを強くするものです。（川瀬）





## 秋のエコウォーキング



平成 29 年 11 月 26 日 (日)

参加者：一般 15 人 オイコス 13 人 合計 28 人

▼ゴミ拾いをしながら散策

昨年 11 月、高く澄んだ秋空のもと、花輪川・桑納川周辺を中心としたゴミ拾いと田園地域の歴史散策の秋のエコウォーキングを実施しました。参加者は 28 名。

まずは、100 年以上の歴史を刻んでいる 4 棟の長屋門を見学し、その後、八千代市周辺の地域に江戸時代ごろからあるという四国八十八箇所霊場を写した吉橋大師八十八ヶ所霊場第二番札所の安養院で八千代の歴史を感じ、昔に想いを馳せながら晩秋の八千代の里山を楽しみました。

その後、参加者が二組に分かれ、桑納川兩岸をゴミを拾いながらウォーキングを行いました。花輪川で再び合流し、第一番札所、第二十番札所のある貞福寺を經由し、花輪川のゴールへ約 2 時間のコースを終了しました。最後に、暖かい高秀牧場の搾りたての牛乳いただき、無事エコウォーキングを終えました。

桑納川、花輪川付近のゴミは以前より少なくなっていますが、それでもまだまだゴミがあります。人間にとって水は生きてゆくために必須の物質です。飲料水、食事、風呂、洗濯、農業、工業用などに欠かせません。花輪川は桑納川、新川を通して、印旛沼までながれていきます。これからも生き物が棲める環境づくりに貢献していきたい、と改めて感じました。

私は今回、実行委員の一人として参加しましたが、日程、コース設定、下見、資料づくり等調整の難しさ、楽しみを感じました。これからも、花輪川の整備を通して、メンバー、市民の皆さんとふれあいができる機会を実施したいと考えています。(実行委員 藤田)



4 棟の  
長屋門

### 編集後記

八千代オイコスかわら版の名編集者、故田邊さんの後を引き継ぐことになり、困惑することしきりですが、何とか今号の発行に至りました。今後ともよろしくお願いします。編集に手間取っている間に、八千代オイコスでは、春のエコウォーキングや次年度の米作りについて話し合いを始め、次年度の総会の準備も着々と進めています。次年度は各事業がどんなふうバージョンアップしていくか、乞うご期待です。(NONN)

発行責任者：川瀬 純一

問合せ☎：047-459-0025

mail：info@yachiyo-oikos.jp